

## 介護殺人の類型化に関する研究

### 一介護支援専門員による意識調査より

○ 湘南医療大学介護福祉別科設立準備室 氏名 宮元 預羽 (9210)

キーワード3つ: 介護殺人、類型化、潜在的な経験

## 1. 研究目的

高齢者虐待や障害者虐待は、身体的、心理的、経済的、性的、放棄、の5つに類型化されているが、家族介護者による介護が関わる殺人事件や心中事件、いわゆる介護殺人の類型化はされていない。筆者は新聞記事を基にテキストマイニングを使用して、介護殺人を「暴行等介護殺人」「放棄等介護殺人」「無理心中等介護殺人」「同意殺人等介護殺人」の4つに類型化した。本研究は4つの類型を質的・量的に確認することを目的とした。

## 2. 研究の視点および方法

対象者は養護者による高齢者虐待の通報者として上位にいる居宅介護支援事業所に所属する介護支援専門員とした。

質的調査の対象は、虐待等の対応経験のある介護支援専門員をスノーボールサンプリング法で選定した。安梅のグループインタビューを基にフォーカス・グループ・インタビュー（以下、FGI）をweb会議システムZOOMで実施し、録画を基に逐語録を作成し、安梅の「分析の段階」を基に質的帰納的に分析した。調査は2023年1月に実施した。

量的調査の対象は、全国の居宅介護支援事業所一覧より層化抽出法と無作為抽出法を組み合わせて799事業所を選び、Googleフォームを活用したwebアンケート依頼文を郵送して依頼した。アンケート項目はFGIの分析結果を基に作成した。調査期間は2023年7月25日～8月28日で、4件法等のデータはIBM SPSS Statistics Ver29を使用して分析し、自由記述はKHコーダー3を使用してテキストマイニング手法で分析した。

## 3. 倫理的配慮

本研究は「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」を遵守して個人情報保護に留意し、国際医療福祉大学倫理審査委員会の承認を得て実施した。

(承認番号22-Ig-129) (承認番号: 23-Ig-51)

本稿は博士論文の一部の報告である。開示すべきCOIはない。

## 4. 研究結果

質的調査について。虐待等の対応経験のある6名の介護支援専門員が対象となった。6

名全員が介護殺人の対応経験はない、とするものの「今思えば介護殺人だったのでは」との発言が3名確認された。インタビュー項目「4つの類型は適切か。統合できるものはないか、追加はないか、等を教えてください」については、「この類型は適切」という意見の他に、「介護生活苦の故の自殺」、「放棄等介護殺人は意図的か否かの有無を問う必要性」等の意見があったが、すべてが事件の“背景”を問うものであった。

量的調査について。190名から回答を得た（回収率24%）。「今思えば介護殺人だったのでは？」とのケースを自分自身や知人が担当していた、との回答が8.2%、「介護殺人」のケースを自分自身や知人が担当していた、との回答が3.6%確認された。4つの類型に対し「あなたはこの類型が適切だと思いますか」との問いに対し、「類型は適切（37.9%）」「追加や修正が必要（20.5%）」「分からない（41.6%）」となり、「追加や修正が必要」と答えた人の理由は「同意殺人は脅しもあるのでは」や「放棄せざるを得ない程の貧困」等、すべてが4つの類型の“背景”と考えられる記述であった。

## 5. 考察

4つの類型は新聞記事を基としている為、犯罪の構成要件となる類型名であり介護殺人の“結果”である。虐待の類型も“結果”である。4つの類型の妥当性は、質的、量的に確認された、と考えた。量的調査のアンケート回収率は24%と少ないものの、量的調査は質的調査のFGIを支持する内容となったからである。しかし、質的調査、量的調査ともに「類型は適切」が多数を占めるものの、「追加や修正が必要」等と答えた理由のすべてが介護殺人の“背景”と考えられる記述であった。今後は“背景”の分析の必要性も検討していきたい。

今回、質的調査の6名全員が介護殺人の対応経験はない、とするものの、「今思えば介護殺人だったのでは」との発言が確認され、量的調査においては「今思えば介護殺人だったのでは？」とのケースを自分自身や知人が担当していた、との回答が8.2%確認された。介護殺人の学術的定義は定まっていない為、介護殺人の関わりは明確に自覚されず、潜在的に経験している介護支援専門員がいることが懸念された。今後、介護殺人の定義を明確に定め、類型を定めることにより、具体的な防止策を講じることが可能になると考えた。

## 引用文献

- ・宮元預羽. 家族介護者による介護に関わる殺人事件の類型化の試み:新聞記事を基にテキストマイニング手法を用いて. 高齢者虐待防止研究2022; 18(1): 58-71
- ・安梅勅江編著(2010)「ヒューマン・サービスにおけるグループインタビュー法Ⅲ」東京: 医歯薬出版2010;1-44, 73-82